

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	自ら学習を調整し、学びを深めることができる資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ、説明・発表、(振り返り・評価)」の流れを繰り返し ながら学んでいく学びのシンキングサイクルを取り入れた授業実践。(通年) ・単元計画・授業計画を精査することで児童の考える時間や活動時間を十分確保できるようにする。 (通年)	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		①目標の達成状況 ②向上策の妥当性
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語では、全ての設問に対して全国平均を上回る正答率だったが、文章から目的に応じた情報を見 つける問題の無回答率が高く、課題が見られた。 算数では、全国平均正答率と比較して概ねよい結果となった。正答率分布グラフから、平均点より高 い点数と低い点数の二か所で人数が多くなっている傾向が見られた。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、学習内容が概ね身に付いている。文章から要点を見つけ出すことは、国語以外でも重要な 能力であるため、要約したり、自分の言葉に直したりする活動を行っていく。 算数では、平均正答率は良好な結果であるが、実態として児童の学力に開きがある。タブレット端末 のさらなる活用を推進し、主体的な学びや個に応じた指導の充実を図る必要がある。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	さいたま市学習状況調査(5月) <小1～中3> (11～12月)	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	・児童の発達段階に応じて、単元や1時間の授業の中で学びのシンキングサイクルを 取り入れた授業実践を行っている。教員間で相互授業参観を行い、授業の質の向上 を図っている。 ・授業の振り返りから次の課題を見出せるよう工夫することで、児童の活動時間の 確保に努めている。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

ざらざら(橋円)

児童生徒の
学力の向上

教育研究所